# 塗料卸売は1兆7千億円

入額304億4900万円、事業所数（支店、営業所含む）3090、従業者数2万2340人となった。

なお、2年前の24年経済センサス活動調査（経産省・総務省）では、塗料卸売業は年間商品販売額が1兆5001億59

00万円、事業所数2996、従業者数2万616人だった。

いがともに4社。

木工は9社中マイナスが4社、プラス3社、横ばい2社。

需要業種別の業況（金額）判断指数は船舶・構造物が109・9%と依然良く、自動車も107・3%、建築も105・0%と好調。電気・機械・金属が101・1%、木工が99・5%。

7月見込み（前年同月比）は販売数量では33社中プラス、マイナス、横ばいがいずれも11社と分かれ、同金額もプラス予想が12社と最多ながら、マイナスも11社、横ばいも10社と多い。7月見込みの販売数量は前年同月比101・1%、同金額は同100・1%で、ほぼ前年同月並みとみている。

## 日本中央研究所
# マレーシアに合弁会社設立
### 遮熱塗料でハラル取得

調印式での間中氏（中央）とSulaiman氏（左）、Ong氏（右）

日本中央研究所（NCK：間中恭弘代表取締役社長）は、同社出資先企業ROTONKIMER CAPITAL SDN BHD並びにマレーシアの上場塗料メーカーSERSOL BERHADと合弁会社を設立することに合意し、7月3日午後6時より東京都江東区の東京ベイコート倶楽部において調印式兼プレス発表を行った。

NCKは特殊セラミックス「アドマファイン」を利用した、遮熱・排熱機能に優れ、なおかつ水系で環境にも優しい塗料「アドグリーンコート」について、日本国内のみならず東南アジアや中東にも幅広く商品展開を行っている。今回の合弁は、同社の遮熱技術を活用して、ハラル認証（イスラム教で〝許可を受けた〟という認定）の遮熱塗料の開発および製造販売することを目的としている。

調印式では、NCKの間中氏、SERSOLのExecutive Directorである Jason Ong氏、ROTONのExecutive DirectorのRazzag Sulaiman氏の間で合弁会社設立の合意文章が取り交わされた。

合弁会社SERSOL-NCK SDN BHDはすでに設立を完了しており、数カ月以内に稼動を開始、売り上げは初年度で5億～8億円を目標としている。

間中氏は「私どもが10年間かけて願っておりました〝環境に優しいものを世界に定着させたい。地球の熱だまりを解決するために遮熱塗料は絶対に有効である〟ということを信じて事業に取り組んでまいりました。世界で一番安全な製品を販売して、〝安全〟をキーワードに世界と繋がるのが、我々のものづくりの原点にあります」と述べた。

併せて、合弁会社で製造される遮熱塗料は近くマレーシアの公的ハラル認証機関から承認を受けたのちにイスラム教圏のハラル市場に展開する予定であること、NCKが水系で低VOCの遮熱塗料を追求してきたことが今回マレーシアでの合弁会社設立と塗料では初のハラル認証へと繋がっていることが紹介された。

続いて行われた懇親会では、来賓の衆議院議員西村明宏氏、同じく渡辺博道氏、そしてSERSOLの代表顧問でマレーシアの現首相ナジブ氏の子息で同国若手経営者のなかでも非常に優れた手腕で注目されているナジブディン氏より祝辞が述べられた後、ハラルに則った食品が振舞われて、盛んに歓談が交わされた。

## 塗言録

いよいよ夏真っ盛り、連夜の熱帯夜で寝苦しい日が続く。各地で熱中症が報道され、気象庁は「高温に関する異常天候早期警戒情報」など呼びかけ、熱中症への警戒を促している▼熱中症は高温多湿により体内の水分や塩分のバランスが崩れ、体の中に熱が溜まって生じる症状の総称。めまい、失神、けいれん、嘔吐、頭痛などがおき、対応が遅れると多臓器不全で死亡する恐れがある。その数は過去20年を見ると、年平均約500人に達する。これを避けるには日常生活で、水分をこまめに摂取する、直射日光を避ける、我慢せずクーラーを使うなどが一般に言われている。特に日中だけでなく、夜間にも十分に水分を補給したり、エアコンで正しく温度管理をすることが重要である▼7月から8月にかけて、2020年に開催される東京五輪に向け、公道の暑さ対策が検討されている。開催期間は猛暑が予想され、選手はもちろん、観客の安全も考えなければならない。国交省は路面温度の上昇を抑える環境舗装技術のマラソンコースなどへの導入に向け、すでに都内の道路でその効果を検証している。遮熱性舗装や保水性舗装の「環境舗装」と「一般舗装」を比較するもので、早ければ今秋にも検証や分析の結果が公表されるという。五輪後も日本の〝環境舗装技術〟を国内外で普及拡大させる狙いもあるようだ▼いま新国立競技場の建設計画の見直し等で世間を騒がせているが、すでに開催まで5年を切っており、着々と準備が進められている。本紙ではこれまでに、五輪関連、ヒートアイランド対策、また助成金など多視点で遮熱塗料・塗装を紹介してきた。最大級のスポーツの祭典に向けて、〝機能性の高い塗料と塗装技術・技能〟でアピールする絶好の機会といえ、今後の行政・業界の動きに大いに期待したい。